

2012 年度 中央大学特定課題研究費 一研究報告書一

所属	文学部	身分	教授
氏名	阿部 幸信		
NAME	ABE Yukinobu		

1. 研究課題

(和文) 漢魏晋南北朝における君臣秩序・政治体制と「天下」概念

(英文) Relationship between lord and vassal and the concept Tianxia of ancient China

2. 研究期間

2年間

3. 研究の概要（背景・目的・研究計画・内容および成果 和文 600 字程度、英文 50word 程度）

(和文)

本研究は、周～漢にかけての「天下」概念の発生・拡大、ならびに魏晋南北朝期におけるその展開と、当該時期の君臣秩序との関係について検討を加えたものである。周～漢にかけての君臣関係の最大の特徴は、貢納と祭祀権の分与を媒介とした共同体間の関係であったことである。こうした構造は、周代の封建制が崩壊したのちも、戦国～漢代の官僚機構に引き継がれた。が、晋南朝になると、官府間の統属関係や官府内の地位の高下に従って、皇帝が個々の官僚の地位を外的に規定するようになっていった。こうした君臣関係の変化には、「天下」の空間的拡大とそれに伴う「支配の多様化」が関与している。漢武帝期に漢王朝が多様な地域性を内包する「世界帝国」に成長すると、地域間の物資の偏在や物価の差異を利用した、塩鉄専売・均輸平準といった新経済政策が行われるようになった。これらの政策は、下位共同体から上位共同体の首長（＝君主）への貢納（租税）を基盤とした従来型の君臣関係に動揺を与えるものであった。新経済政策によって、中間の共同体を介することなく、君主が直接に「天下」の全域から富を収奪するシステムが出現したからである。こうした新しい経済構造を梃子にしながら、前漢後半期から後漢末にかけての約 300 年のあいだに、君主は下位共同体を個別具体的に処遇することをやめ、それに伴い祭祀権の分与をも廃止して、「天下」内部の秩序をあらかじめ外的に設定したモデルに機械的にあてはめるようになっていったと考えられる。

(英文)

This research aims to trace the transformation of relationship between lord and vassal under Zhou, Han, Wei, Jin and the Southern and Northern Dynasties. During the reign of Han Wu-di, the Tianxia of Han covered the inner China, at the same time, the Emperor started exploiting the people directly. After that, the traditional relationship between lord and vassal, that is, the relationship of communities binded by reciprocity, transformed gradually into the order which was planned ahead by regal power.

